

国産廃食用油を原料とするバイオジェット燃料製造サプライチェーンモデルの構築

団体名：日揮ホールディングス株式会社、コスモ石油株式会社、株式会社レボインターナショナル、日揮株式会社

発表日：2025年7月15日

背景

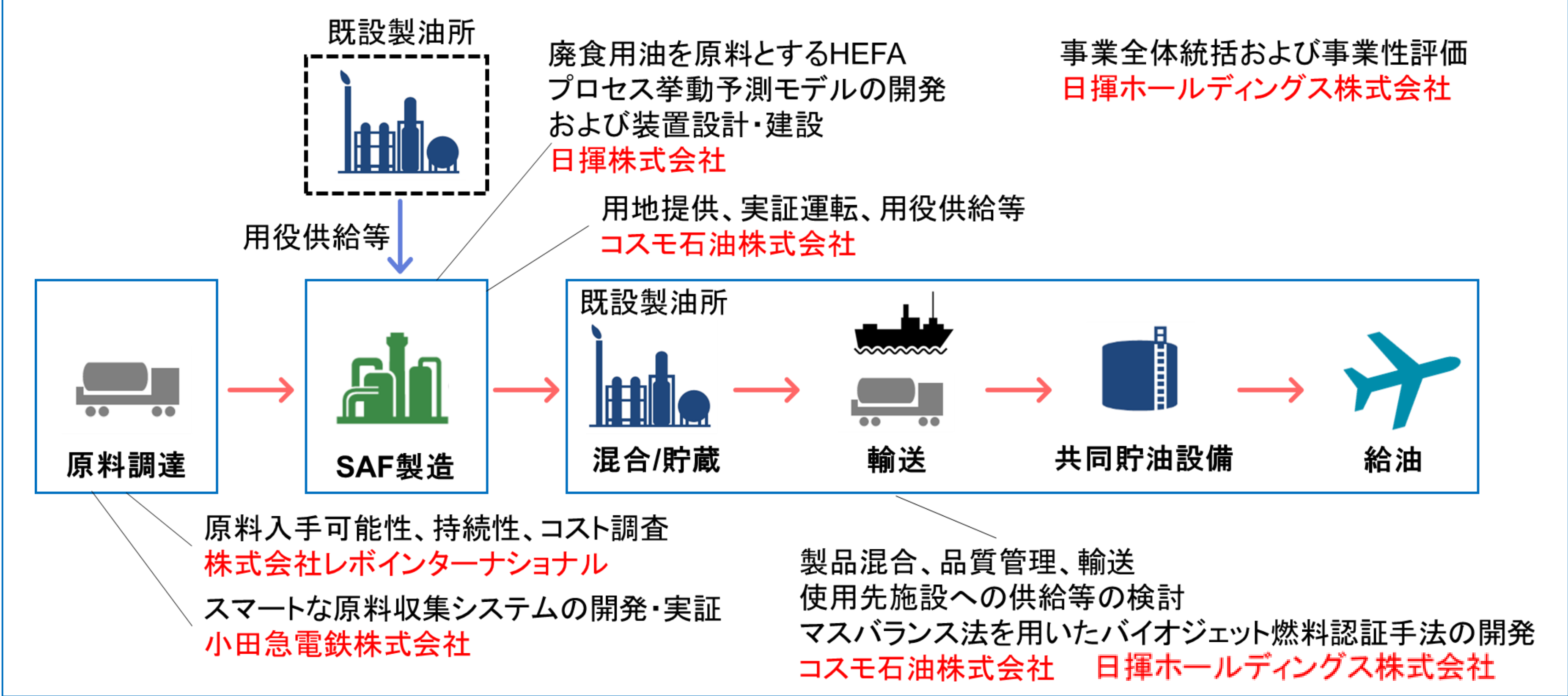
昨今、世界的な温室効果ガス排出量削減への対応が急速に求められる中、航空業界においても、国連の機関であるICAOによって長期的なCO₂排出削減目標が設定されている。

CO₂排出量削減目標達成の手段の1つとして、SAFの導入が提唱されており、今後のSAF市場規模の拡大が見込まれている。現状、欧米ではSAF製造が進むなか、国内では本格的なSAF製造が始まっていない状況にあった

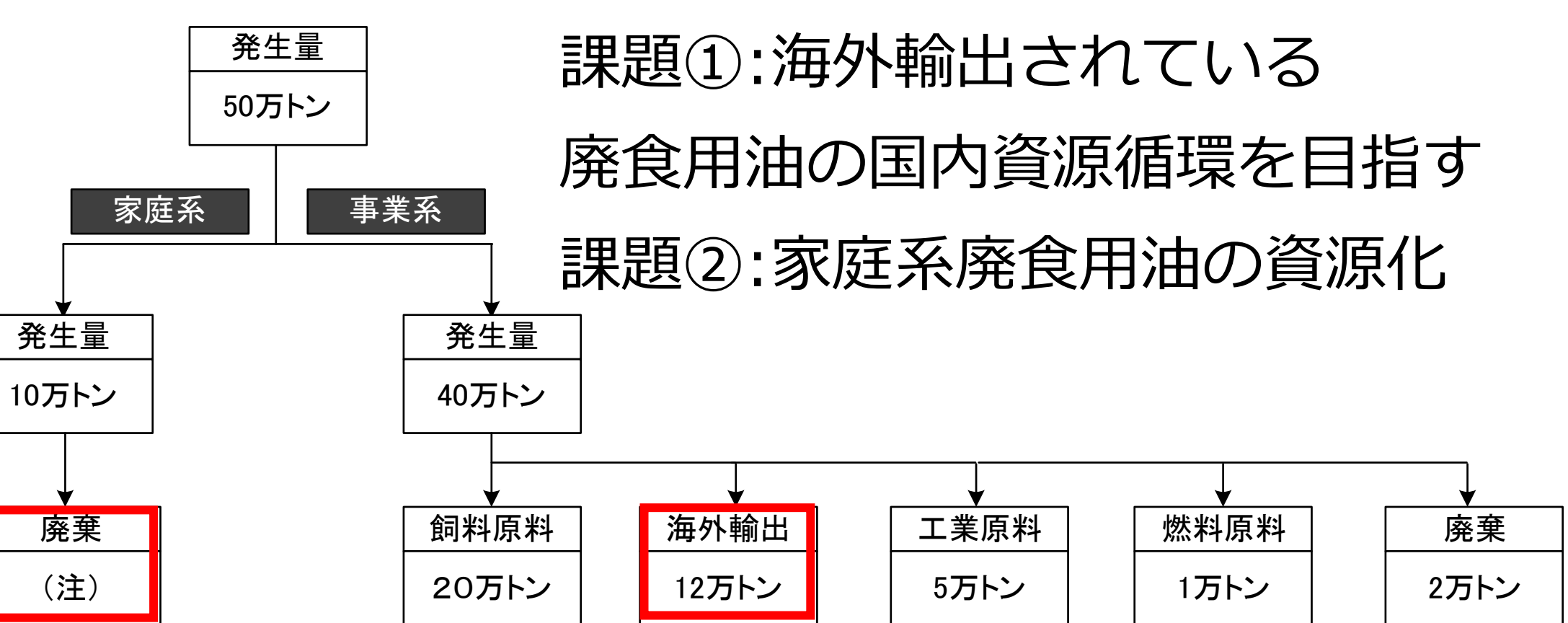
取組内容

バイオジェット燃料製造サプライチェーンモデル開発の概要

・令和4年に合同会社SAFFAIRE SKY ENERGYを設立



廃食用油の回収



課題①：海外輸出されている
廃食用油の国内資源循環を目指す
課題②：家庭系廃食用油の資源化

国内資源循環による脱炭素社会実現
に向け「Fry to Fly Project」を開始



・国内資源循環による脱炭素社会実現に向け「Fry to Fly Project」を令和5年から開始

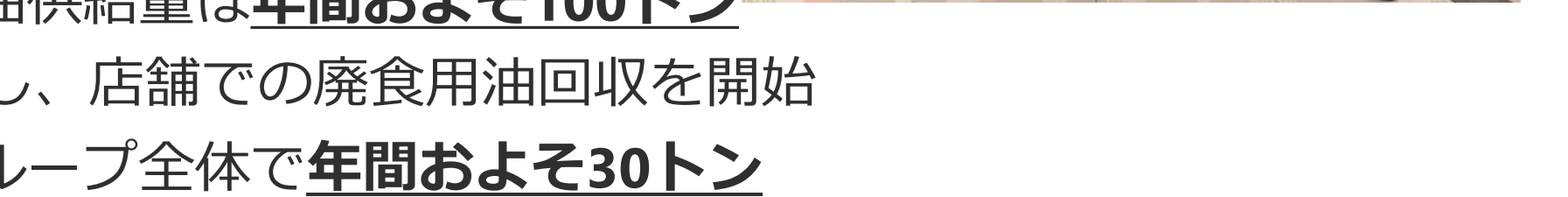
自治体イベントでの廃食用油回収・周知（各自治体）



商業施設および施設イベントでの廃食用油回収・周知
（三菱地所株式会社・株式会社大丸松坂屋百貨店）



イオンモールでの家庭系廃食用油回収
（イオンモール株式会社、関西エアポート株式会社）



- 2024年4月 東急モースデベロップメントとの基本合意
みなとみらい東急スクエアからの提供を開始
廃食用油の供給量は年間およそ2トン
- 2024年5月 ブレナスとの基本合意
やよい軒124店舗からの提供を開始
廃食用油の供給量は年間およそ220トンを想定
- 2024年6月 肉汁餃子のダンダダンとの基本合意
全国の店舗からの提供を開始
- 2024年7月 神戸市との協定締結
Osaka Metroとの基本合意
レストラン等からの廃食用油提供、駅構内サイネージでの周知を開始
- 2024年9月 徳洲会との基本合意
140の病院等施設からの提供を予定、廃食用油の供給量は年間およそ30トン
神戸市が市民からの廃食用油回収を開始
取組拡大に関する発表会を実施
- 2024年10月 高島屋との基本合意
廃食用油供給量はグループ全体で年間およそ250トン
ダイニングイノベーションとの基本合意
まずは3ブランドからの提供を予定、廃食用油供給量は年間およそ100トン
堺市との協定締結、イオンモールなどと連携し、店舗での廃食用油回収を開始
京急電鉄との基本合意、廃食用油供給量はグループ全体で年間およそ30トン
- 2024年11月

目的

- ・国産SAFによる航空セクターのCO₂排出削減
- ・国産廃食用油を原料とするSAF製造サプライチェーン構築・実証
- ・海外産SAF輸入等による海外への資本流出低減
- ・国産バイオ資源である廃食用油の海外への流出防止

令和6年末に国内初の廃食用油からのSAF量産装置が完工

令和7年4月にSAFの本格製造・供給を開始



- ・SAF製造設備として国内で初めて
CORSIA認証およびEU認証を取得
- ・CEFとしての航空会社への供給が
可能に

今後の実用化に向けた取組

- ・混合SAF、バイオナフサを生産物として安定的な運転を開始
- ・販売先は航空会社、化学会社等を想定
- ・令和7年5月に関西国際空港で旅客便への国産SAF初供給・
中部国際空港で貨物便への国産SAF初供給について発表
- ・今後実用化に向けて、海外で製造されるSAFと十分な競争力を
有する価格での供給を目指す。



関西国際空港での
初供給イベント



中部国際空港での
初供給イベント

連絡先：日揮ホールディングス株式会社
MAIL：uemura.ayaka@jgc.com

植村 文香